



2015年に向けた
リサイクル行動計画
「プラン2015」

容環協は、2011年4月に2015年を目標年度とした飲料用紙パックリサイクル行動計画「プラン2015」を策定しました。この計画は、2007年に策定した「プラン2010」を継続し発展させるものです。

プラン2010では、環境負荷の少ない社会、一人ひとりが環境を考え行動する社会の実現に向けて、「紙パックの回収率を高める」、「紙パックの環境特性を正しく伝える」、「環境を考え行動する人を増やす」を目的にしました。これらの目的を実現するため、事業の体系化を図り、重点事業を決めました。また毎年、計画の見直しを行ってきました。

プラン2010は、経済の変動が激しい状況の中にあっても概ね順調に展開できました。例えば牛乳パック回収ボックスの提供や、出前授業などの教育・学習的な側面では成果を上げることができました。

しかし、最も重要な家庭からの紙パック回収率は思うほど伸びなかったこともあって、目標とした回収率50%達成には至りませんでした。計画に基づく諸事業が短期間で回収率に反映されにくいこと、また自らの活動はできても、それを拡げることができなかったことが大きな理由でした。

プラン2015ではこれまでの理念を踏襲しながらも、事業がより実効的かつ社会に広範に拡がっていくよう計画を見直しました。2年目にあたる2012年度は、前年に作成

したロードマップに基づき、活動組織を見直し課題に取り組むことにしました。

1. 企画運営委員会

開催月にて四半期運営委員会、月次運営委員会からなる

① 四半期運営委員会

構成: 参加を希望する理事、専門委員会の委員長・副委員長・他専門委員

審議: 理事会への付議事項、専門委員会への調査・審議事項、専門委員会取組事項報告他

② 月次運営委員会

構成: 専門委員会委員長・副委員長・他専門委員

審議: 四半期運営委員会に付議・報告事項、専門委員会への調査・審議事項他

2. 専門委員会

① 総務委員会 50%回収ロードマップに関する調査・ヒアリング・検証・報告、予算執行状況確認・次年度予算策定、規約・規定の改正などの活動

② 広報委員会 年次報告書発行、ホームページ編集、その他リサイクル向上に向けた啓発ツール作成などの活動

③ イベント委員会 環境イベント出展のための企画運営作業、紙パックリサイクル促進活動として講習会・出前授業の企画運営などの活動

④ 支部組織委員会 地域の回収率向上のための支部組織作りに関する活動



20周年記念事業の一環として、
日韓フォーラムの開催と韓国視察を
行いました。

【韓国訪問】

容環協の設立20周年記念事業の一環として、日韓乳業産業グリーン政策情報交流会および韓国視察が4月11日より4日間にわたり行われ、容環協の中嶋会長ほか16名が参加しました。

初日は釜山到着後、「釜山広域市資源再活用センター」、古紙問屋の「(株)東信製紙」を視察し、慶州へ移動。2日目は「ソウル牛乳協同組合 居昌工場」を視察、3日目は「E-MART」を視察し、午後より「日韓乳業産業グリーン政策情報交流会」が開催されました。

「グリーン政策情報交流会」の日韓フォーラムとしての開催は2012年で3回目。両国の低炭素化、資源循環の促進、特に紙パックリサイクルの質的向上を目的として行われ、韓国紙パック資源循環協会・李会長より歓迎の言葉、容環協・中嶋会長、韓国乳加工協会・朴会長、全国パック連・平井代表からの挨拶の後、両国より、それぞれ3題の報告、ごみじゃぱん石川代表の特別講義「減装ショッピングについて」がありました。

質疑応答・懇親会の場でも非常に活発な意見交換が行われ、盛会の内に無事終了。今回のフォーラムも成功を収めました。



韓国事務局の方と日本視察団の皆さん

国、各種団体、関連企業等が参加し、
再生可能エネルギーについての取組の紹介や
事例報告を行いました。

【環の縁結びフォーラム】

10月31日、新宿区立産業会館(BIZ新宿)において、全国パック連主催・容環協協賛の第6回「環の縁結びフォーラム」が、「再生可能エネルギーへの取組」をテーマに開催され、国、各種団体、関連企業等から68名が参加しました。

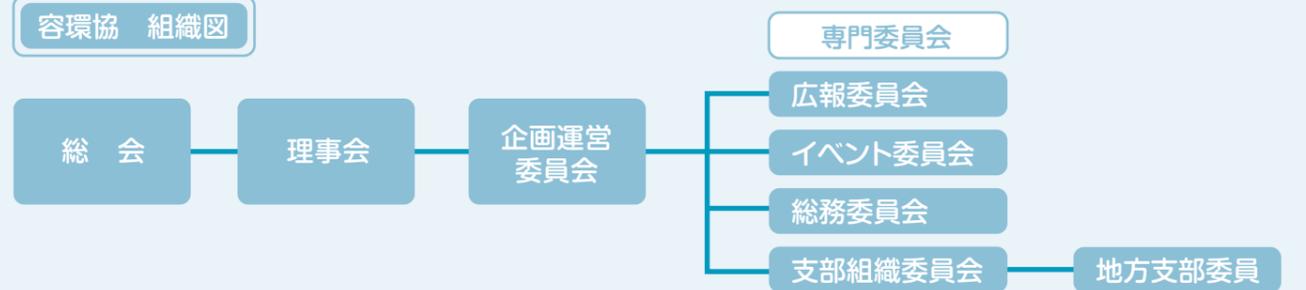
冒頭、全国パック連・平井代表、容環協・中嶋会長より挨拶があり、基調講演では、日本エネルギー経済研究所の工藤拓毅副センター長、自然エネルギー財団の大林ミカ氏より、再生可能エネルギーの普及に向けての政策や制度上の課題、世界の自然エネルギーの導入状況や今後の見通しについて、ご紹介いただきました。

また、事例報告として、日本自然エネルギー(株)「グリーン電力証書システム」、京都市環境政策局「バイオマス活用推進計画」、北越紀州製紙(株)「製紙工場におけるバイオマスの利用」、北陸グリーンエネルギー研究会「アルミ付き紙パックからの未利用エネルギーを用いたグリーンエネルギー発電」の4題あり、様々な立場からの取組み報告や将来のエネルギーに対する知見など、これまでとは違った目線で考える大変有意義なものとなりました。



主催者: 全国パック連平井代表挨拶

容環協 組織図



紙パックリサイクル促進地域会議



各地域での情報交換を通じて、
リサイクルの促進を図る
地域会議を開催。

「紙パックリサイクル促進地域会議」は、容環協と全国パック連の共催で毎年開催されており、地域ごとの現状と課題を把握することで、紙パックリサイクルの拡大を図ることを目的としています。2012年は回収量の少ない都市部に力を入れるべく、東京の2地域で開催しました。

各会議とも、自治体や関連メーカー、市民団体など多彩なメンバーの参加があり、それぞれの活動報告や問題提起がされています。この会議の中で、参加者が相互に理解を深め、情報交換をすることで、紙パックのリサイクルをよりいっそう推進していくことを確認しました。

紙パックリサイクル促進地域会議
in 東京東部地域

- ◆開催日 2012年3月8日
- ◆参加者 農林水産省、経済産業省、自治体、市民団体、調査会社、古紙関係団体、事業者など40名

【主な報告や問題提起】

- 容環協より、「プラン2015」で掲げた紙パック回収率50%以上の目標を達成するためには、使用済み紙パックの回収率をいかに底上げするかがポイントであるという意見がありました。
- 経済産業省担当者からは家庭から排出される古紙の分類規準（「識別マーク」や「雑誌・雑みの分別」）を分かりやすくしたいなど、意見が出されました。
- 自治体や東京東部地域の回収業者からは、この地域は高齢者や単身者が多く、紙パック製品の購入量が少ないので、排出量も少ないのではないかと意見が出され、紙パックを含んだ資源というくくりで住民の意識向上を図りながら回収量を増やしていきたいとの報告がありました。

- 乳業メーカーからは、手すきはぎづくり教室などのイベントを通じて、一般の方々に紙パックの情報やリサイクルの大切さを直接伝えるとともに、社員を積極的に参加させることで社内でのリサイクル啓発にもつなげていきたいという意見がありました。また神奈川県内での学校給食用牛乳の紙パック回収率100%へ向けた取組事例報告がありました。
- 古紙関係団体からは、日本の古紙全体の回収率は79%前後で世界的に見ても高い回収率ですが、国内利用率は63%で残りは輸出されているという課題について、紙パック回収率向上は古紙の国内利用率を上げる力にもなり得るので協力していきたいという意見がありました。
- 調査会社からは、雑がみへの混入対策、少子高齢化や単身者が多いといった状況下でも紙パックを集めやすいシステムの構築が必要ではないか、という意見がありました。
- その他の意見としては、回収率の鈍化を考えると、回収意欲を引き出すための何かを紙パック回収にも付けるべきではないかといった意見が出され、古紙全体の状況も踏まえ、運動の再構築の必要性もうかがえる会議となりました。
- 課題としては、消費者へ紙パックを分別して出す意義などの情報提供とともに、生協・量販店・自治体や各事業者がさらに連携して取り組むことが望まれます。



渡邊常務理事の挨拶

紙パックリサイクル促進地域会議
in 東京北部地域

- ◆開催日 2012年11月25日
- ◆参加者 農林水産省、環境省、経済産業省、自治体、市民団体、調査会社、古紙関係団体、事業者など38名

【主な報告や問題提起】

- 農林水産省より回収率50%より高い回収率を目指してほしいとの要望があり、環境省より紙パックリサイクルの理解を深めたい旨の発言、経済産業省より古紙の更なる品質向上と輸出の安定に取り組んでいく旨の説明がありました。
- 大田区では、24,700ヵ所のステーションで回収しており、回収量は平成27年度の計画を上回る状況になること、また、小学校の環境学習にも取り組んでいるとのことでした。
- 中野区は自治会による集団回収で、回収業者の扱品目などの関係上、雑誌・雑がみと一緒に回収されることが多く、紙パックとしての回収量が少ないとのことでした。
- 容環協の調査結果で、多摩市は拠点回収となっているが、ごみの減量化と資源化の取り組みに応じて点数化し、手数料の差別化を実施したところ、コンビニエンスストア等で紙パック回収ボックスを自主的に設置した店が増えたとのことでした。
- 調査会社からは、自治体のホームページには「紙パックの分別回収をしている」と掲載されているものの、ア

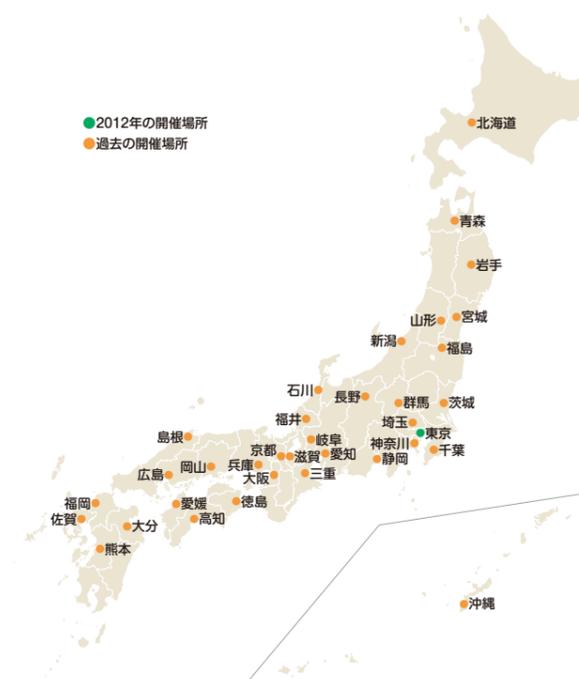


地域会議の様子

ンケート調査では「一緒に処理」との回答もあり、実態と乖離しているとの報告がありました。

- 渋谷区の市民団体からは、紙パック回収率は50%を超えているものと思っていたので、さらに紙パック回収の啓発に努めたいとの発言がありました。
- 関連団体や再生紙メーカーからは、紙パックとして回収されても最後は雑誌に混入して輸出されている実態があるとの報告や、子供への啓発活動の重要性について意見がありました。
- 古紙関係団体からは、紙パック1枚1枚を回収することは大変なことだが、情熱を持ってそれに取り組むことが大切です、との意見がありました。
- 容環協からは、紙パックリサイクル推進のため協働できそうな事業所を絞り込み、支部組織の構築を図っていること、メールマガジンの配信など新たな活動を開始したことを報告し、2015年の紙パック回収率50%を目指し、総力を挙げて取り組んでいくことをお伝えしました。

地域会議の開催場所



リサイクル促進意見交換会

紙パックリサイクルフォーラム



関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【第25回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】 2月2日

東京都千代田区の乳業会館にて、国、自治体、市民団体、乳業メーカー、紙パックメーカー、流通業者、古紙関係団体、主催関係者など57名が集まり意見交換会が開催されました。

最初に容環協・中島会長より挨拶、そして容環協から「プラン2010」への取組内容および課題についての報告、新たに活動を開始した「プラン2015」への取組状況の報告がありました。その後、農林水産省からは紙パック回収率50%以上の達成と前回未達成だった500ml用紙パックの軽量化に期待していること、また、回収率の低い家庭系、事業系への啓発活動推進の要望がありました。また、経済産業省からは容器包装リサイクル法(以下容リ法)見直しの進捗状況の報告と要望事項があればぜひ提出していただきたいこと、そして、環境省からは紙パック回収率向上の鍵は排出者の意識向上であり、何かお手伝いできることがあれば協力したいことなどの意見をいただきました。

また、全国パック連・平井代表より今後回収率向上に向けて回収量の少ない都市部にどのように働きかけるか、各自治体へ紙パックを分別排出する大切さをどう伝えるか

が重要になる。その意味においてもこのような意見交換会を開催することは大切であるとの意見をいただきました。

自治体からは、取引価格の下落による中間処理業者のモチベーションの低下により紙パックの回収量が減少してしまったことや雑誌・雑がみへの紙パックの混入量の増加、学乳用紙パックの回収について回収業者の選定や回収した紙パックの保管場所の確保などの問題点が出されました。

流通業者からは、各社の紙パックリサイクルの取組状況やその中で発生した課題についての報告、業界の枠を越えてリサイクルに関する提案や事例紹介など情報の共有化を図りたいので、タイムリーな情報発信をお願いしたいとの要望をいただきました。

その他の主な意見として、紙パックは大切な資源であり今後も資源の分別排出、回収について市民へPRしていきたい。そのためには、積極的に紙パックリサイクル活動へも参加し、その活動を繰り返し継続していくことが大切との意見をいただきました。

最後に紙パックのリデュースについて、原紙メーカーから取組の状況報告と日本乳業協会より国内での各社の進捗報告がありました。

意見交換会の規模を拡大。
初めて市民の方が参加し、直接意見を
伺う有意義な会議に。

【第1回紙パックリサイクル市民・自治体・事業者フォーラム】 8月24日

静岡県富士市の「ふじさんめっせ」において、第1回の紙パックリサイクルフォーラムが開催されました。これは、毎年開催していた再生紙メーカーとの意見交換会の規模を拡大して、さらなる充実を図ったもので、当日は市民・自治体・事業者から64名が集いました。

基調講演では、全国パック連・平井代表より「紙パックのリサイクル促進に向けて」と題し、回収率アップや環境意識の向上のために「牛乳パックリサイクル講習会」や「出前授業」の継続が有効であり、これらの活動は韓国の紙パック資源循環協会の啓発事業として取り入れられ、日韓乳加工産業の交流の橋渡しになったことが報告されました。最後に今後の展開として、回収の6割を占める店頭でのフォローを企画し、再生品の購入促進を図り、事業者が直接消費者の声を聞く機会とするとともに、地域戦略のツールとして、さらに、次の展開のためのステップとしても利用してほしいとの提言がありました。

続く講演でも、容リ法見直しや、古紙回収事業者・原料問屋に関する調査結果など、紙パックリサイクルに関する多方面からの情報提供などがあり、参加者は興

味深く耳を傾けていました。

その後、各立場から紙パックリサイクルへの具体的な取組報告があり、自治体からは、環境に配慮した活動を実施している小売店をHPなどで紹介し利用を勧めることで、市民の環境配慮への意識向上につなげた事例や、リサイクル製品認定制度を設けてリサイクル品の積極的な利用を進めている事例などが紹介されました。また、乳業メーカーからは、社内での紙パックリサイクルキャンペーン実施状況、再生紙メーカーからは、福祉作業所と連携したオリジナルトイレットペーパー製造の事例や、地元のイベントでの紙パックとトイレットペーパーとの交換や手すきはがきづくりなどの実施事例の紹介がありました。

さらに、初めての試みとして、市民・自治体・事業者の代表によるパネルディスカッションが行われ、それぞれの立場から紙パック回収量の向上などについて様々な意見が出され、市民の方の生の声を直接伺うとともに、紙パックのリサイクルについての情報の共有化や提供方法について考える大変有意義な機会となりました。



中島会長の挨拶



参加された方々からも熱心な意見交換が行われました



会場となった「ふじさんめっせ」



パネルディスカッションで貴重な意見をいただきました

牛乳パックリサイクル講習会

牛乳パックリサイクル出前授業



現状を知っていただき、
実際のリサイクルを体験する
楽しい講習会です。

【相模原市】2011年12月10日・2012年8月2日

相模原市では、前年に引きつづき、「牛乳パックリサイクル講習会」と市環境経済局の「ごみ収集体験」との二部構成で「親子リサイクル体験教室」を開催しました。8月の教室には猛暑の中、13組32名が参加し、「紙すき体験」では、子どもたちだけでなく保護者の方々にも大変喜んでいただくことができました。

【さいたま市 市進ウイング校】4月21日

初めての容環協主催による講習会では、生徒8名と保護者や開催地の市進ウイング校講師5名の計13名が参加しました。DVD「牛乳パック探検隊」の視聴後に行った牛乳パック手開き体験では、学校で実践している生徒たちが多く、皆、上手に開くことができました。

【ユニー株】7月14日

ユニー株では紙パックの回収量が減少している現状を受け、リサイクルの啓発のため、店頭および出前授業で「紙すき講習会」を導入予定です。そのため、名古屋市環境局、ユニー株、その関連団体から20名が参加し、「紙すき講習会」「紙パックリサイクルに関する意見交換会」の二部構成で開催し、充実した講習会となりました。



相模原市資源循環推進課長のご挨拶 (相模原市)

【大月市】7月14日

大月市ボランティア評議会との共催による講習会で、日頃から高齢者介助などのボランティアを行っている48名の方が参加されました。大月市は日本の牛乳パックリサイクル活動発祥の地。容環協より「ここでスタートした活動は今も根付いている」と説明後、講義と紙すき体験を楽しんでいただきました。

【西東京市】7月24日

エコプラザ西東京開催の環境講座「夏休み自由研究2012」の第一弾として実施された講習会には、小学生46名と保護者ほか10名の方が参加。今年で4回目の開催で、講義では、積極的に手を挙げて質問に答える子どもたちの姿に、環境への関心の高さがうかがえました。

【品川区】8月10日

品川区の環境学習講座の一つとして行われた講習会。小学生など17組39名の子どもたちと保護者の方々が参加され、区のケーブルテレビの撮影も行われました。手すきはがきづくりでは、「誰に手紙を書こう」と友達同士や親子で話している姿がとても印象的でした。

【中野区】8月19日

中野区が進める「ZEROからはじめよう!エコプロジェクト2012」の一つ、エコ講座として企画された講習会には、照りつける日差しの中、小学生15名と保護者14名の計29名が参加。手すきはがきづくり体験では、小さな参加者も保護者の手助けで、一緒にハガキが完成していく過程を楽しみました。



手すきはがきづくりに奮闘中 (西東京市)

子どもたちの学びの場に。
毎年好評の「出前授業」を
全国の小学校で開催。

2012年も全国の小学校で、全国パック連と連携して「牛乳パックリサイクル出前授業」を開催しました。

【広島県 広島市立仁保小学校】1月27日

今回で3度目の訪問になる仁保小学校は、4年生3クラス102名と、かおり学級7名が参加。いつも児童たちが元気よく挨拶、率先してお手伝いしてくれる学校です。学校給食の牛乳パックリサイクルが実施されているので、リサイクルに対する関心は高く、お休みしているクラスメートの分もハガキを作るなど、われわれの気持ちも温かくなりました。

【愛知県 日進市立東小学校】10月10日

2012年創立百周年を迎えた東小学校では、環境教育の一環として4年生60名を対象に開催。講義ではクイズ5問を生徒たちに回答してもらい、手すきはがきづくりでは、紙パックが上質な資源として価値があることを実感してもらいました。自作のはがきを掲げての記念写真撮影では、元気な「ありがとうございました!」の挨拶に感動しました。



出前授業へのお礼状をいただきました (日進市立東小学校)

【岐阜県 神戸町立神戸小学校】10月11日

濃尾平野の北西部にある神戸小学校は139年の歴史があります。「志を立てやりぬく子(立志力行)」の教育目標のもと、学習と運動に励み、リサイクル・エコ活動も盛んです。今回は4年生3クラス101名が出席し、手すきはがきづくりでは欠席者の1名分を先生が作り、102名分が完成しました。「広報ごうど」の取材も受けました。

【広島県 広島市立大町小学校】11月6日

今回の出前授業は生徒だけで4年生5クラス169名と、過去最大級。スタッフも17名の大所帯での訪問でした。体育館での手すきはがきづくりでは、紙すき台が10台も並ぶ壮観な眺めでしたが、人数が多いため2グループ交替制として、1つのグループが紙すき体験中、もう一つのグループはPTA役員さんが用意したゲームで親子熱戦を繰り広げ、笑顔の溢れる一日となりました。

【栃木県 茂木町立茂木小学校】11月13日

茂木小学校は明治6年開校の歴史ある小学校で、建物には木の温もりを感じます。今回の授業は1年生2クラス40名の生徒を対象に体育館で行われ、オリジナルの手すきはがきづくりに挑戦し、子どもたちだけでなく保護者の方々にも喜んでいただけました。現在、茂木小学校では牛乳パックのリサイクルは行われていませんが、これを機に検討していただけることになり、スタッフ一同期待できる授業となりました。



出前授業での講義風景 (茂木町立茂木小学校)



リサイクルの大切さを啓発。
紙パックの手開きや
紙すきを体験しました。

【エコライフ・フェア2012】6月2日、3日

環境省主催の「エコライフ・フェア2012」が、環境月間の6月に合わせ、代々木公園で開催されました。来場者数は前年より減少したものの約66,000人が訪れ、6回目の参加となった容環協は前年同様、全国パック連との協働で出展しました。

ワークショップ会場では、DVD「牛乳パックン探検隊」の視聴と牛乳パックの手開き体験を午前・午後の2回実施しました。出展ブースでは、パネルを用いて「森林の管理～紙パックリサイクルの流れ」を説明し、紙パックを使った「工作体験コーナー」も併設しました。工作体験参加者の中には海外からの親子連れもいて、言葉が通じないため身振り手振りの説明でしたが、とても楽しそうに工作に取り組んでいました。



ワークショップで食育とリサイクル啓発



工作体験コーナー

連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロダクツ2012】12月13日～15日

毎年12月に東京ビッグサイトにて開催される国内最大級の環境展「エコプロダクツ2012」に牛乳パック再利用マーク普及促進協議会と共同出展し、今回で連続9回目となりました。

来場者数は前年を少し割り込む178,501人。容環協ブースでは、DVD「牛乳パックン探検隊」の視聴と牛乳パック手開き体験を中心としたワークショップを開催しました。併せてパネルを用いて「森林の管理～紙パックリサイクルの流れ」を説明し、ブース壁面に、全国乳業メーカーから提供された紙パックによる「紙パックの木」を展示しました。

また、恒例となった全国パック連の協力による「手すきはぎづくり体験」や「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」受賞作品展示なども実施し、容環協ブースは連日来場者で賑わいました。



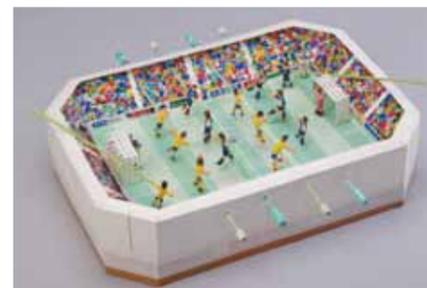
ワークショップ風景



全国乳業メーカー提供「紙パックの木」

久保谷 尊さんの作品
「牛乳パックで“がんばれ日本!!”」が
みごと最優秀賞に。

12回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2012」には全国の小学生より3,292作品の応募がありました。いずれも秀作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞作品7点が選ばれました。おめでとうございます。



最優秀賞作品「牛乳パックで“がんばれ日本!!”」
久保谷 尊さん

最優秀賞は茨城県の小学校4年久保谷さんの作品「牛乳パックで“がんばれ日本!!”」です。ロンドンオリンピックのサッカーを題材に、動かして遊べるものを!と、一生懸命考え、工夫した力作です。久保谷さんは、「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2011」の優秀賞に続き、今回見事最優秀賞に輝きました。

受賞作の表彰式は「エコプロダクツ2012」の容環協ブースにて行い、審査委員長の東京国立博物館・銭谷館長、実行委員長の容環協・中嶋会長はじめ審査委員の方々から、受賞者にそれぞれ賞状・盾・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の子ども向けホームページ「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。



最優秀賞受賞の久保谷 尊さん



エコプロダクツ2012で行われた表彰式

《受賞作品》

- ◆最優秀賞 『牛乳パックで“がんばれ日本!!”』
久保谷 尊さん(つくば市立栗原小学校4年)
- ◆優秀賞 『牛乳パック ガンダム』
城後 慎之介さん(北九州市立赤崎小学校3年)
- ◆優秀賞 『エコプラインド』
吉田 依生さん(岩国市立杭名小学校6年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞 『ぞうり』
上田 紗葵さん(横浜市立三ツ境小学校1年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
『2012 LONDON 努力の天才になろう』
前田 康汰さん(佐倉市立西志津小学校6年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞 『紀州手まり』
秦 まりなさん(和歌山市立三田小学校5年)
- ◆日本乳業協会賞 『高原の夏』
鈴木 なほさん(厚木市立森の里小学校6年)

容環協の発行物

紙パックの特性やリサイクルを
わかりやすく学べるDVDや
リーフレットを提供しています。

DVD「牛乳パックン探検隊」

容環協の小学生向けWEBサイト「牛乳パックン探検隊」の内容の詳細版として、子どもたちが環境を考え、自ら行動することの大切さを学ぶ教材となるDVD「牛乳パックン探検隊」を準備しています。お申し込みいただいた学校・団体には無料配布しています。

「紙パックリサイクルほんとはなし」

紙パックのリサイクル向上のための活動を進める中で日頃よく質問されることや疑問に思われていることを中心に、紙パックが環境にとってとてもやさしいこと、他の紙製品と分別しないとせっかくの資源が有効に活用できなくなってしまうことなどを誰にでもわかりやすいように図柄を多くして解説しています。



DVD「牛乳パックン探検隊」



「紙パックリサイクルほんとはなし」

容環協ではリサイクルから
地球環境を考えられるように各種
の刊行物を発刊しています。

書籍「紙パック宣言」

紙パックの特性やリサイクル活動などを詳しく解説した書籍で、リサイクルの意識を深めながら地球の未来へ向けた提言となるような内容となっています。

著者に(株)エコイブスの猪瀬代表、全国パック連の平井代表のほか、容環協からも7名参画しました。

「牛乳パックリサイクル全国20事例集」第3集

紙パックの回収システムは店頭回収、市町村回収、集団回収の3ルートが確立されていますが、分別回収には地域への理解や工夫が必要です。この事例集は全国の市民団体、自治体、事業者各分野での実践事例を紹介してリサイクルのさまざまなシーンでの課題解決のヒントとなることを目的として編集しています。



書籍「紙パック宣言」
日本評論社



第3集となった「全国20事例集」

その他の活動

百貨店や量販店の環境活動を
バックアップしています。

【量販店「(株)カスミ」との連携】

10月14日、茨城県茨城町「沼沼環境フェスティバル」、10月21日、牛久市「うしくみらいエコフェスタ」に協賛出展された地元を中心にスーパーマーケットを展開する「カスミ」のブースで紙パック工作を行い、資源の大切さを来場者に体験していただきました。

【百貨店「(株)三越伊勢丹」との連携】

11月17日と18日の両日に銀座エコロジー展2012が銀座三越で開催され「牛乳パックでオリジナルのクリスマスカードをつくろう!」のワークショップを全国パック連と協働で出展しました。手すきはがきづくり体験を通じて、リサイクルされる紙パックの品質の高さを感じていただきました。



「沼沼環境フェスティバル」(株)カスミ出展ブース



銀座三越「手すきはがきづくり」ワークショップ

WEBを活用した最新情報の発信

【容環協ホームページ】

容環協が開設しているホームページでは活動の最新情報である「紙パックリサイクル促進地域会議」や「牛乳パックリサイクル講習会」、小学校での「出前授業」の様子などの報告が閲覧できます。また、各年度の年次報告書、中期行動計画「プラン2015」やリサイクルの事例、各会員の活動なども更新されています。小学生向けには「牛乳パックン探検隊」のコンテンツがあり小学生が楽しみながらリサイクルや環境を守る大切さが学べるようになっています。

容環協HP

<http://www.yokankyo.jp>

牛乳パックン探検隊HP

<http://www.packun.jp>

携帯電話用のWEBサイトも開設し「紙パックの開き方」を動画で確認できます。

携帯用

<http://www.yokankyo.jp/mobile/>



容環協ホームページ



牛乳パックン探検隊ホームページ